

1972年に海星に勤め始めまして、終わったのが2017年ということで、たいへん長い間海星でお世話になっています。今日お話しさせていただきたいのは、海星には特別な空気があるということです。4年間、もしくは2年間、海星でシスター方、そして先生方の薫陶を受けながら、勉強に、友人との出会いにと過ごしてこられる中で同窓生の皆さんが、そして私もずっと感じ続けていたのは、「海星には特別な空気がある」ということです。ある先生が「海星の門をくぐると背筋がピンと立ちます」と言っておられました。この学校の持っている、「海星の精神」というものは、設立母体であるFMM（マリアの宣教者フランシスコ修道会）のシスター方の全生涯をかけて神に仕え、そして人に仕えて生きる姿、つまり仕える姿そのもので、それが大きな力、他の言葉で言えばキリスト教的な価値観が海星には息づいています。それはとても貴重でとても大切な精神です。現在のエゴイズムの世界の、自分が自分というのではなく、そつと後ろから、あるいは下から手を差し伸べて共に歩いていこうという、その精神を皆さんはこの海星の中で学ばれ、そして今も生きておられると思います。昨年、海星が閉学になるという話がありましたが、この精神というものは、皆様方同窓生を通して、社会に、皆さんのご家族に、友人に伝わり、それがまた次の世代へと繋がって行って、日本の、世界のある意味で土台になっているということを感じています。だから、とても貴重なこの学校が終わるのは残念です、けれども、希望があります。皆さんの力によって、皆さんの生き方によって、この「海星の精神」というものは人々に伝えられていきます。

最近この「海星の精神」いわゆるスピリットが伝わっていると感じる2つの出来事がありました。1つは、かつて学生たちはシスター方のお姿を見るだけで、「海星の精神」というものがわかりました。けれど、シスター方が2000年代に終わられたので、大学としてキリスト教的な授業や様々な研修を通して学生たちにそれを伝えていきます。そして本当に見事に、4年間海星にいた人たちが、外に出ていく時に「社会のために働きたい、人のために役に立ちたい」という思いを持っています。シスター方がおられなくなっても、海星の中にその精神が続いています。1つの研修という形で、キリスト教研修1というものを2年生が受けるのですが、先日、たまたま私が講師をさせていただきました。学生たちには、マリアのお告げと、マリアのエリザベト訪問ということを中心にしながら、マリアが神の言葉を受け取ってエリザベトと共に喜ぶということを話し合いました。その中で、学生たちに感じたことを、思ったことを書いていただきました。既に彼女たちの中に、心を開いてこの見えない世界のことに耳を傾ける姿勢、驚きをもって感動する心を感じました。そしてこれから2年、3年、4年と海星で育ちながら、彼女たちは海星の精神というのを育んでいくでしょう。こういう学生たちがいるということに、大変大きな喜びをいただきました。

もう1つは、つい最近、本当につい最近ですが、まだ若いのですが、2人の子供を残してこの世から旅立っていった年齢は47、8の卒業生の話です。数年前にがんがわかっていたそうですが、今年の3月頃に彼女の友達が連絡してくれて電話で話しました。その時はもうホスピスにいて、いつどうなるかわからない状態でしたが、その彼女が、「海星で4年間過ごしたことがとても幸せでした。私の人生の中で本当に生きる喜びをもらったので、子供たちに海星の精神を伝えたいと思って、子供たちを教育してきました。」ということを言っていました。

この海星の精神というのは、この激動の時代、エゴイズムとナショナリズムに走り、モラルが低下したと言われるこの時代にも脈々と生きています。皆様がおられる限り希望があると確信しています。今後ともよろしくお願ひします。